

ふたばっ子とともに

R4. 11. 25

11/9(水)の朝会では、子供たちに「人は変わるか」という質問を投げ掛け、「成長する」ということについて話をしました。その内容についてお伝えします。

「成長」について ～人は変わるか？～

—前略—

さて、10月からこれまでの間に、大きく変わったと感じられる学年があるので紹介します。

まずは、6年生です。11月1日、2日と修学旅行に行ってきました。修学旅行を終えた6年生は、変わりました。それは何かというと「朝の挨拶」です。先生が、朝、教室を回っていくと、大勢の人が「おはようございます。」と返してくれるようになりました。6年生は、12月にキッズチャレンジビジネスで、遠鉄百貨店での販売活動に挑戦します。お客さんと接する活動を通して、さらに心のこもった挨拶ができるようになっていくはずですから、まだまだ変わっていくことがとても楽しみです。

そして、4、5年生です。4、5年生は、10月のはじめに、観音山へ1泊2日の自然教室に行ってきました。自然教室を終えた4、5年生は、変わりました。5年生は、クラスの問題をみんなで考えたり話し合ったりして、自分たちの行動を決めて実行できるようになりました。特に素晴らしくなったのが、先生がいらっしやらないときの「自習」の姿です。4年生は、先生や友達の話をよく聞いたり、自分の考えを堂々と話したりして、学習が進められるようになってきました。昨日の研究授業では、教育委員会の先生や双葉小の先生方が参観した授業で、そうした素晴らしい姿が見られました。

どうですか。双葉小の高学年の子たちが大きく変わり始めました。とても頼もしいですね。もちろん1、2、3年生もがんばっています。2学期も後半に入っています。これからも「ともに」大きく伸びるふたばっ子であってほしいです。

では、ここで、みなさんにクイズを出します。

第1問。これは、何でしょう。
そう「アオムシ」です。



第2問。これは、何でしょう。そう「モンシロチョウ」です。

次は、難しいよ。

第3問。これは、何でしょう。よくわかりましたね。そう「ヤゴ」です。

第4問。最後の問題です。これは、何でしょう。

正解。「オニヤンマ」です。



今紹介したのは、どちらも、幼虫の時の姿とそれが変化して成虫になった姿です。

ここで、スペシャルクイズです。しっかりと考えて教えてください。

アオムシは、モンシロチョウに変わり、ヤゴはオニヤンマに変わります。

では、私たち「人」は、変われるでしょうか。

みなさんは、給食を食べたり、体育や休み時間に運動したり遊んだりすることで、体は、大きくなっていきます。これは、外見つまり見た目が変わっているということになります。ただ、チョウチョウやトンボのように、羽が生えたり、手足が伸びたりと全く違う形になることはありませんね。



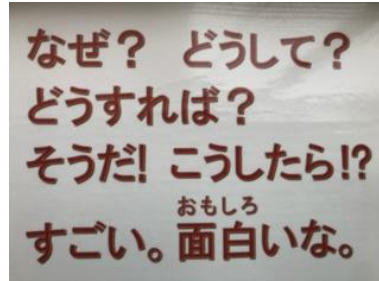
では、「心」と「頭」はどうでしょう。これらは、「内面」といって、私たちの見えない部分になります。「見えないから、どうなっているのかわからない」ではいけません。なぜなら、実は、この「見えない部分」が変わるかどうか、とても大切だからです。

みなさんは、学校生活や家庭での生活の中で、様々な学習に取り組んだり、いろいろな経験や体験を重ねたりしています。そうした多くの学びを通して、みなさんの内側にある物事の「見方」や「考え方」、「受け止め方」などが変わっていくのです。

でも、ただ、学校に来て、教室にいて、授業いればよいというわけではありません。なんとなくみんなについて校外学習に行ったり、学校に来ていただく講師の先生の話をも、黙ってぼんやりと聞いたりすればよいということでもありません。



大切なのは、一つ一つの学習や体験をするときに、あなた自身が、「なぜだろう?」「どうすればいいのかな?」「そうだ、こうしてみよう!」と頭を使って考えたり、「すごいなあ。」「これ、面白いな。」「これは楽しいぞ」と、目の前の「ひと・もの・こと」に心を動かしたりすることです。そうすると、何かを学んだり経験したりした後の、あなたの「態度」や「行動」が変わります。それは、あなたの「心」と「頭」が変わったことになるのです。



どうでしょう。「体」も「心」も「頭」も、変わることが分かりましたか。

わたしたちは、この「変わる」ということを、「成長する」と呼んでいます。はじめに紹介した、4、5、6年生は、自然教室や修学旅行を通して、成長したから大きく変わって見えたのです。

みなさんの目の前や周りには、自分自身や友達、クラスを変えてくれる、つまり「ともに」成長させてくれるたくさんの活動が用意されています。ぜひ、あなたが変わるチャンスを生かして、モンシロチョウやオニヤンマに負けない、大変身、大成長する姿を見せてください。



子供たちは、学習や行事をはじめ様々な活動を終えた後に「こんなことができるようになった」とか「こういうことが考えられるようになった」と、自分自身が身に付けた力のことを語ったり、「これからはこういうことを意識してやっていきたい」とか「次はこんな力が身に付くように頑張りたい」と、未来に向かって自分が進む道を見出せたことを表現したりします。

それは、まさしく子供たちが「成長した証」だと言えます。

そして、今、小学校では「この学習や行事を通してこういう力を身に付けることができる」という最終目標を示した上で、様々な活動に臨めるようにしています。また、できる限り、子供自身が、今の自分を見つめたり、将来の自分を見据えたりして、「こういう力を身に付けたい」と願って、活動に取り組めるようにスタートや学習展開などを工夫しています。

子供たちは、何かを経験するたびに確実に「前とは違う自分になっている」、つまり「成長している」はずですが、ただ、大人でも、自分を多面的に、また客観的に見つめ分析して「ここが変わった」というのは難しいものです。ですから、子供自身が、そのことに気付けるようにサポートやガイドをしてあげなければならないし、その役目を果たすの、周りの人(友達、家族、教職員、地域の方等)に

なるのではないかと考えます。

これからも双葉小学校では、「自分の成長」を捉えられる自己分析の力と、他者の頑張りや変化を認め、伝えてあげられる他己分析の力を高めることで、成長を実感できる毎日を積み重ねていけるよう、教育活動の充実に努めていきたいと思いをします。